

# 島津義久

薩隅統一四五〇年記念シンポジウム

戦国島津氏を率いた不屈の当主



登壇者

新名一仁

〔基調講演・ハネルデイスカッション〕  
〔中世島津氏研究者〕  
〔南九州大学非常勤講師〕

桐野作人

〔歴史作家〕  
〔武蔵野大学政治経済学研究所客員研究員〕

岩川拓夫

〔ハネルデイスカッション進行〕

同日開催

島津義久と霧島  
～ゆかりの史跡巡り～

義久ゆかりの史跡を巡るバスツアー！  
〔詳細は裏面ご覧下さい〕

令和7年

1/26日

入場無料

(席先着順)

14:00▶16:30  
(開場 13:30)

国分ハウジングシビックホール

(霧島市国分シビックセンター多目的ホール) JR国分駅から徒歩7分

イラスト：添田一平

主催：しまづくめ〔かぎん文化財団2024年度助成事業〕 共催：霧島市教育委員会

問い合わせ先：contact@sengoku-shimadzu.com / 霧島市教育委員会社会教育課文化財グループ ☎0995-64-0708



幕末に雄藩として活躍し、日本を明治維新へと導いた存在の一つ、薩摩藩。その礎を築いたのが、長きに渡り諸勢力が割拠し分裂状態だった南九州を統一した、いわゆる「戦国島津氏」です。そして島津氏代々の悲願、薩摩大隅日向（現在の鹿児島県と宮崎県）の三州統一を果たし、最盛期には九州一円を席卷するに至った時期に島津氏を率いていたのが、島津家第十六代当主・島津義久です。

義久はその後の豊臣氏や関ヶ原合戦での敗北も乗り越え、島津氏の拡大と存続に手腕を発揮した人物ですが、一般での認知は、華々しい合戦での逸話に彩られた弟・義弘の影に隠れがちで、肖像画も現存しておらず、「義弘が当主である」と誤解されることも少なくありません。霧島市もまた、義久が晩年を過ごした富隈城と舞鶴城、また義久本人や娘の墓が残る、ゆかりの深い地であるにもかかわらず、その注目度は決して高くはないのが実情です。

2024年、天正二年（1574）に義久率いる島津氏が薩摩・大隅国を統一して450年を迎えました。また義久の生誕500年となる2033年も近づきつつあります。これを契機に、中世島津氏研究の第一線にある専門家をお招きし、義久の事績の再評価と最新の研究動向の紹介、そしてその発信をテーマにシンポジウムを開催します。

## ■プログラム

第1部 基調講演「島津義久の実像—戦国大名から豊臣大名へ—」（新名一仁）

第2部 パネルディスカッション（桐野作人・新名一仁／進行：岩川拓夫）

「義久研究の最前線」

「義久生誕500年に向けて ～戦国島津発信の展望～」

新名 一仁（にいなかずひと）／中世島津氏研究者・南九州大学 非常勤講師



宮崎市在住。広島大学大学院文学研究科博士課程国史学専攻、博士（文学、東北大学）。南日本新聞社 第44回南日本出版文化賞受賞。著書・編著に『島津貴久』（戎光祥出版）、『島津四兄弟の九州統一戦』（星海社）、『中世島津氏研究の最前線』（洋泉社）、『現代語訳上井覚兼日記』（ヒムカ出版）、『「不屈の両殿」島津義久・義弘』（角川新書）、『戦国武将列伝11 九州編』（戎光祥出版）、『図説 中世島津氏』（戎光祥出版）などがある。

桐野 作人（きりのさくじん）／歴史作家・武蔵野大学政治経済研究所客員研究員



鹿児島県出水市出身。立命館大学文学部史学科卒業。歴史関係の出版社編集長を経て独立。著書・共著に『さつま人国誌 戦国・近世編』（南日本新聞社）、『龍馬暗殺』（吉川弘文館）、『村田新八』（洋泉社）、『関ヶ原 島津退き口 -義弘と家康一知られざる秘史-』（ワニブックス）、『増補改訂 猫の日本史』（戎光祥出版）などがある。現在、南日本新聞で「かごしま街道見聞記」を連載。

〈きりしま歴史散歩〉

島津義久と霧島 ～ゆかりの史跡巡り～

令和7年1/26（日）9:00～12:00 ※雨天実施

定員：25名程度 参加料金：1,000円

発着地：霧島市役所お祭り広場駐車場

応募締切：令和7年1/9（木）必着 ※応募多数の場合抽選

主催：霧島市教育委員会・しまづくめ

## 応募方法

QRコードよりお申し込み頂くか、往復はがきに氏名・住所・電話番号ご記入の上、下記宛てにお送り下さい。

〒899-4394 鹿児島県霧島市  
国分中央三丁目45番1号  
霧島市社会教育課文化財グループ

